

水源の森再生PJ #1

～山の涵養力を育てる作業道のつくり方～

2021年6月26日(土)・27日(日) 参加者43名

◆講座の目的と概要◆

「自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる」

本講座は、環境改善の技術を学ぶだけではなく、「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけ、日本各地で環境再生を指導する方を養成していきたく思います。2021年6月から始まり複数回、同じ現場で活動しその変化を体感しながら学びます。基本となる、山の土中環境を傷めず育む作法は、毎回の活動中にお伝えしていきます。

◆第1回 「山の涵養力を育てる作業道のつくり方」◆

山と谷の地形の読み方、人工林を健康な多種混交林へと返還させるための第1歩を実地で学びました。人工林の森の中で作業するための道のつけ方ひとつで、環境を悪化もさせれば育てもします。山に水を浸透させ、豊かな森になるための歩道づくりをおこないました。

また、下層植生の育っていない斜面に対し、パッチ状の皮むき間伐を行い、稚樹が生育できるマウンドを数か所造成しました。



シカ道のように、等高線に沿って歩道を引き、断面は水平に保つ、その後雨滴から土壌面を保護するため落ち葉などで被覆。



土壌が流れやすい場所には、枝がらみの土留めを行う。



技術指導：「土中環境」著者 高田宏臣氏



皮むき間伐で、徐々に林内へ光が差し込むように誘導する。乾燥材のため伐倒時にも林床を必要以上に傷めない。



枝を積み上げただけでは、腐りづらいので、枝は人サイズ(1.5m)くらいまで短くして処理。



実生が育つための土と枝を絡ませたマウンドを林床に造成。



◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術や山の見方などは、高田氏の著書「土中環境」や、NPO法人地球守が発行している「地球守の自然読本4」に詳しく紹介されております。ぜひ、ご興味のある方はご購入下さい。

お問合せ 源流大学 ☎0428-87-7055
✉info@npokosuge.jp



▼NPO法人地球守HP

▼源流大学HP

主催 NPO法人多摩源流こすげ・多摩川源流大学
技術協力 株式会社高田造園設計事務所 NPO法人地球守
後援 小管村役場

